

## 成人の先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中島, 幸則 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2000955">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2000955</a>

順天堂大学 博士（医学）

氏名 中島 幸則

論文題目 成人の先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価

#### 論文内容の要旨

これまで、先天性聴覚障害者の平衡機能に関する報告は、そのほとんどが難聴児のものであり、成人になった聴覚障害者の報告はみられない。そこで、我々は成人の運動習慣のある先天性聴覚障害者 15 名の平衡機能について検討した。評価項目として、開・閉眼片脚立ちテストと重心動揺検査を行った。同年代の成人健常者 20 名と比較したところ、開眼片脚立ちでは健常者との差はみられなかったものの、閉眼片脚立ちでは健常者よりも有意に劣っていた。重心動揺検査においても、同様に閉眼での単位軌跡長において、健常者よりも劣っていた。そこで、聴覚障害者の平衡機能をより詳細に検討するために、前庭機能の検査で用いられる、温度眼振検査と前庭誘発筋電位検査を行った。その結果、前庭誘発筋電位検査で機能低下は認められなかったものの、温度眼振検査において、片側・両側合わせて 4 例の半規管機能低下者を認めた。しかし、その 4 例と、開閉眼片脚立ちテスト・重心動揺検査との関連はみられなかった。

この結果からも、聴覚障害者は健常者に比べて、視覚に対する依存度が非常に高いことが考えられ、聴覚障害者の視機能が健常者よりも優れているのではないかと考えられる。そこで、スポーツビジョン測定で用いられている、横方向動体視力検査を用いて健常者と視機能の評価を行った。その結果、成人の先天性聴覚障害者は健常者よりも優れた結果を示した。以上のことから、成人の先天性聴覚障害者の平衡機能は、閉眼では健常者と比べて劣るものの、平衡機能調整のために、優れた視機能を最大限に活用することによって、健常者と同様に高いレベルでスポーツを行うことができるのではないかと考える。